

学校別傾向と対策～明治大学付属明治中学校～

算数

出題傾向

大問5題程度(小問16問程度)の構成で50分間のテストになります。解答用紙には、大問2以降の問題に式や考え方を書く欄が用意されています。また、出題される問題の質は他の明治大学の附属中学校と比較しても、非常に高いものになります。二者間距離のグラフの読み取りや仕事算を応用したニュートン算など、対策の必要な単元が頻出になります。また、つるかめ算なども頻出単元にはなりますが、3つの不確定数が存在するため複雑な問題になります。

合格への対策

それぞれの大問は難易度が高いものになりますが、傾向には偏りが見られます。速さ、仕事算、点の移動、つるかめ算、相似など、それぞれの単元の応用内容のやり込みが合格の鍵となります。また、それぞれの大問の中の小問には、繋がりがあるため、(1)を間違えてしまうと、(2)(3)を続けに間違えてしまう可能性があります。そのため、(1)を正確にとることが必要になりますので、それを意識した見直しを磨くことが合格に繋がります。

国語

出題傾向

例年、大問は3題構成です。読解問題が2題、漢字の書き取りが1題です。特徴的なのは、読解問題はほぼ論説文系であり、物語文は出題がありません。また、記述問題が主体で、しかも字数制限のないものになっています。さらに、文章はやや長文です。以上から時間的にはかなり厳しく、速読速解が求められます。

合格への対策

速読の条件は、語彙が豊富であることと文章に対する背景知識があることです。これがなければスラスラ読むことはできません。ただ単に問題を解いておしまいではなく、その文章のテーマ、筆者の主張、それを支える主な理由などを整理する学習が効果的です。記述が主体ですが、論説文は解答に至るまでの解法はある程度パターン化できます。それをマスターすることで解答スピードは上がります。できれば、専門の塾等で会得するのが良いでしょう。

理数特化型進学塾 **進塾**

東京都北区赤羽西1-39-1 伊藤ビル3階

TEL 03-5924-7747



学校別傾向と対策～明治大学付属明治中学校～

理科

出題傾向

40分間の試験で大問7問程度の構成になります。75点満点になっているため、一般的な他の中学校と比べ、理科で差をつけることが可能となる学校となります。しかし、出題される問題は、作図や計算の問題を中心に難易度が高いものとなっています。基本的な知識も出題されますので、そこを確実に抑えることもとても重要になるでしょう。また、理科では珍しい7単元に渡る出題になりますので、満遍なく単元を把握しておくことが必要になります。

合格への対策

解答形式は記号選択が中心ではあるものの、正確な知識を要求する問題が多いです。しっかり、1つ1つの知識に対しての理屈を理解しておくことが要求されますので、学習する中で意識することが大切になります。また、理科で大きく差をつけるためには、計算問題を対策する必要があります。難関校ではよく出題される化学反応のモデルの計算や生物・地学分野の計算など多岐にわたるため、単純な類出計算問題の計算演習のみならず、他の中学校の過去問から計算問題を抜き出して演習などを行うと効果的です。

社会

出題傾向

例年、大問は3題構成です。それぞれ、地理、歴史、公民(時事問題など含)です。地理は、地形や国土に関する問題が多く、資料を元にした出題が目立ちます。歴史は比較的オーソドックスです。公民は時事問題が主体ですが、政治以外に話題になっているものも出題も見られます。

合格への対策

地理が鍵です。日本の国土、地形に関するものや、データはしっかりと頭に入れておきましょう。時事問題に関しては基本的な時事問題のテキストをマスターするのは大前提で、その他ニュースになっているもので、社会の問題として出題されてもおかしくないものにも気を配る必要があります。全般的に持っている知識をそのまま答えれば良いものではなくそれを元にして解答する思考力が求められます。早い段階でアウトプット型の学習に切り替えましょう。

理数特化型進学塾 **進塾**

東京都北区赤羽西 1-39-1 伊藤ビル 3階

TEL 03-5924-7747

